平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
守恒 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

⑵ 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

守恒 中学校「平成26年度　全国学力・学習状況調査」の結果について

1．教科に関する調査結果の概要

① 学力調査（国語A・B、数学A・B）結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を上回っている。
国語B	全国平均正答率を上回っている。
数学A	全国平均正答率を上回っている。
数学B	全国平均正答率を上回っている。

（資料）本市・全国の結果【平均正答率】

		国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ
平成２４年度	本市	73.5	61.1	58.6	43.8
	全国	75.1	63.3	62.1	49.3
平成２５年度	本市	74.7	65	60.3	38.2
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5
平成２６年度	本市	77.2	47.6	62.4	54.4
	全国	79.4	51	67.4	59.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	3年連続で全国平均正答率を上回っている。 文脈に即して読むこと、書くことに課題が見られる。
	よくできた問題	文章を書くことについてはよくできている。
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく読むことに課題が見られる。

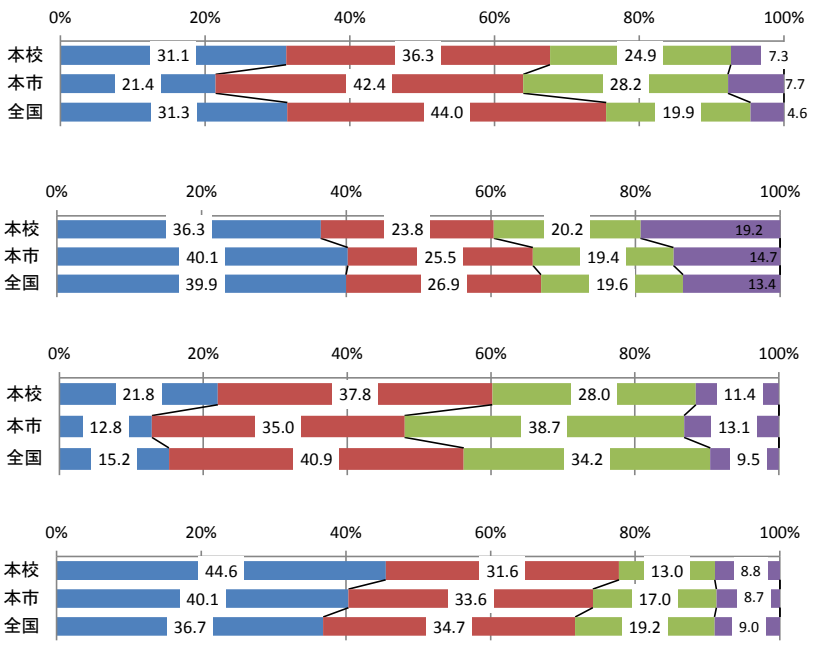
国語B	全体的な傾向や特徴など	3年連続で全国平均正答率を上回っている。 ほぼ全問、全国平均正答率を上回っている。
	よくできた問題	根拠を明確にして自分の考えを書くことは、全国平均正答率を大幅に上回っている。
	努力が必要な問題	本や文章から目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題が見られる。

数学A	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を大きく上回っている。 図形を移動させたとき、角や辺の対応を正確に読み取ることに課題が見られる。
	よくできた問題	正の数・負の数、文字式の計算問題は正答率が高かった。 数量の大小関係を表す問題は、全国平均正答率を大きく上回っている。
	努力が必要な問題	2つの図形の関係を捉えることに課題が見られる。

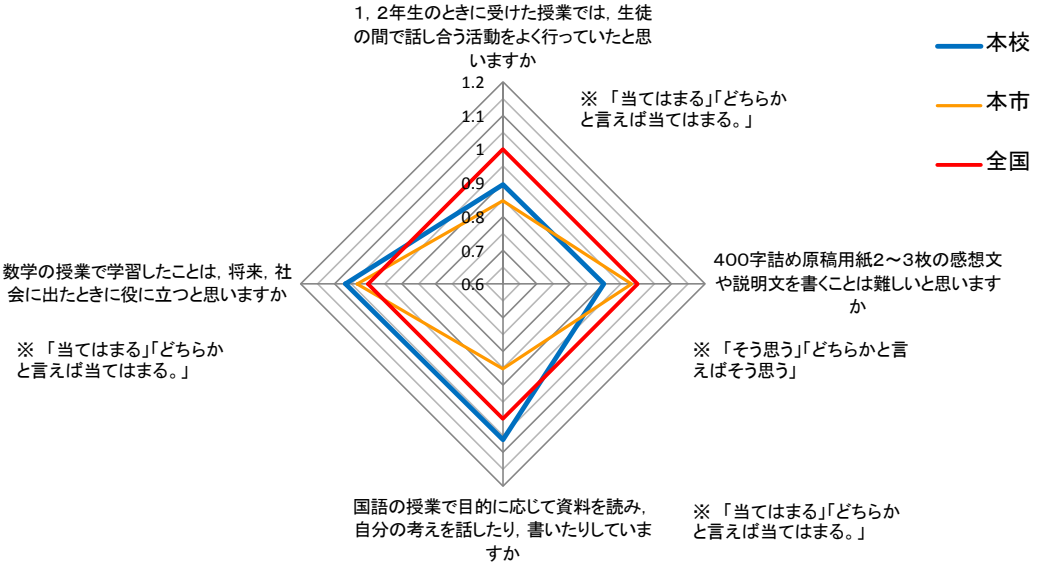
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を大きく上回っている。 説明や証明する問題の無解答率が低い。
	よくできた問題	式を適切に変形することを完成する問題の正答率が、全国平均を大きく上回っている。
	努力が必要な問題	判断の理由を説明する問題に課題が見られる。

③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号	質問事項
43	1，2年生のときに受けた授業では，生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか
46	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか
55	国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか
68	数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか



④ 本校と本市の対全国比（全国を1とする）



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

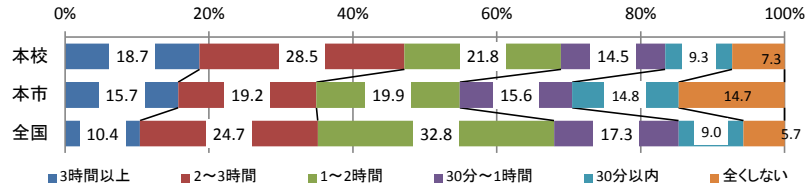
・生徒間の話し合い活動をよく行っていると答えた生徒は、全国平均を下回るが、その差が小さくなっている。今後も、各教科で指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置づけた授業を行う。
・文章に書くことに抵抗感を持っている生徒が減少傾向にある。今後も、自分で調べたことや考えたことを説明させたり、書かせたりする授業を行う。
・数学が将来役に立つと思う生徒は、全国平均を上回っている。今後も、実生活の様々な場面に、数学の知識・技能等を活用していく力を伸ばしていく。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

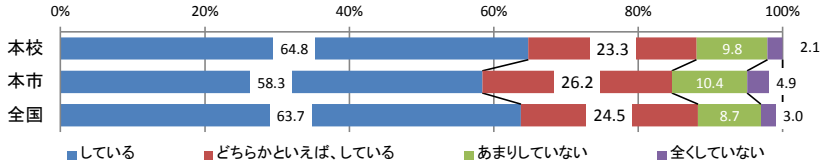
14

学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



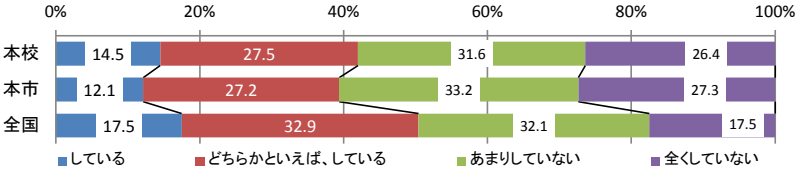
22

家で，学校の宿題をしていますか



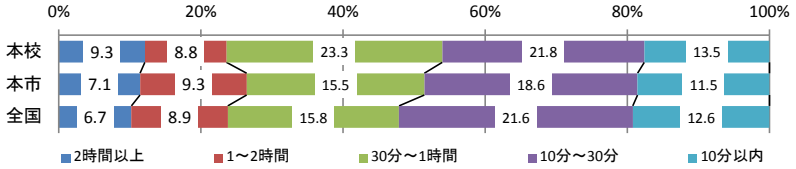
24

家で，学校の授業の復習をしていますか

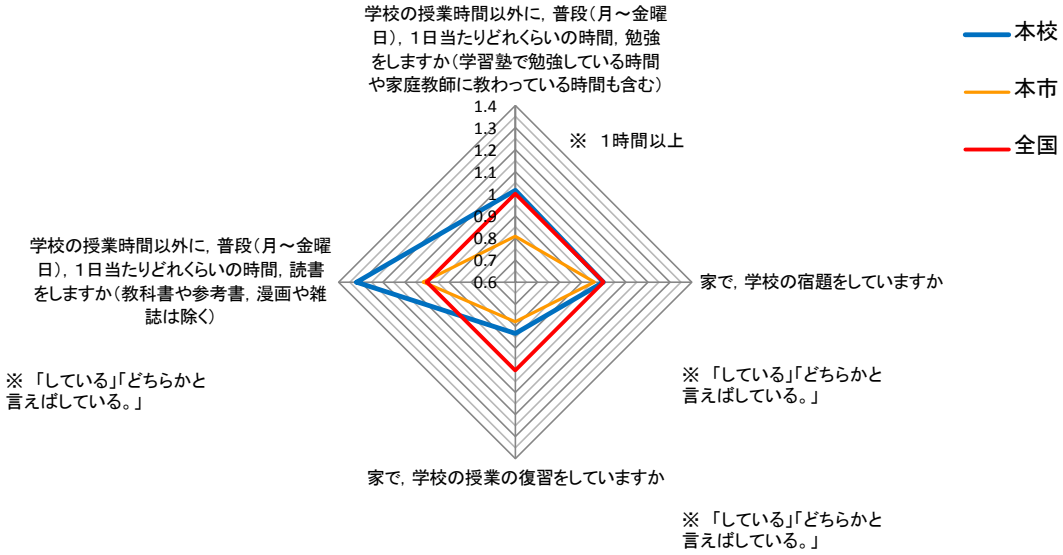


17

学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）



② 本校と本市の対全国比（全国を1とする）

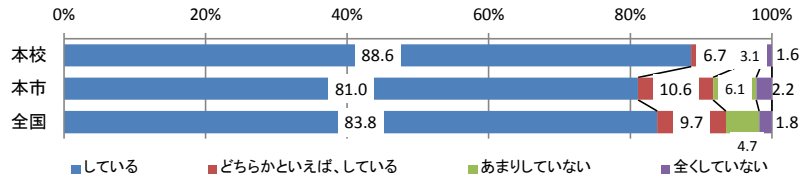


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

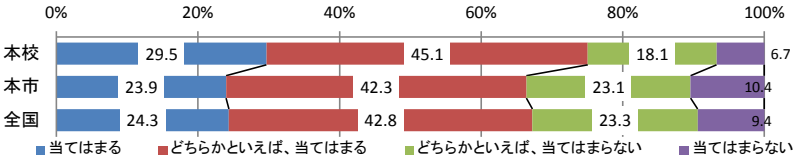
・2時間以上家庭学習をしている生徒の割合は、全国平均を上回っている。
・家で宿題をする生徒は多いが、復習する生徒は全国平均を下回っている。授業の復習をする習慣を身につけさせたい。
・読書については、全国平均を上回っている。

④ 生活習慣等に関する調査結果

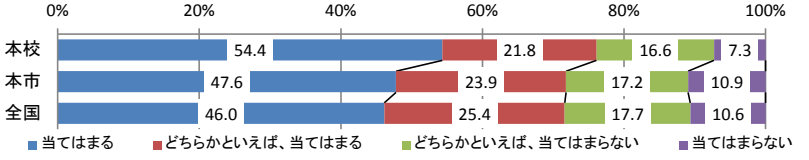
1
朝食を毎日食べていますか



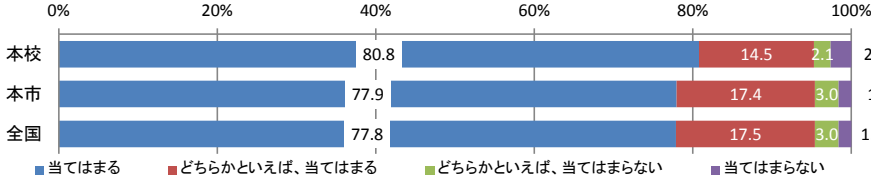
6
自分には，よいところがあると思いますか



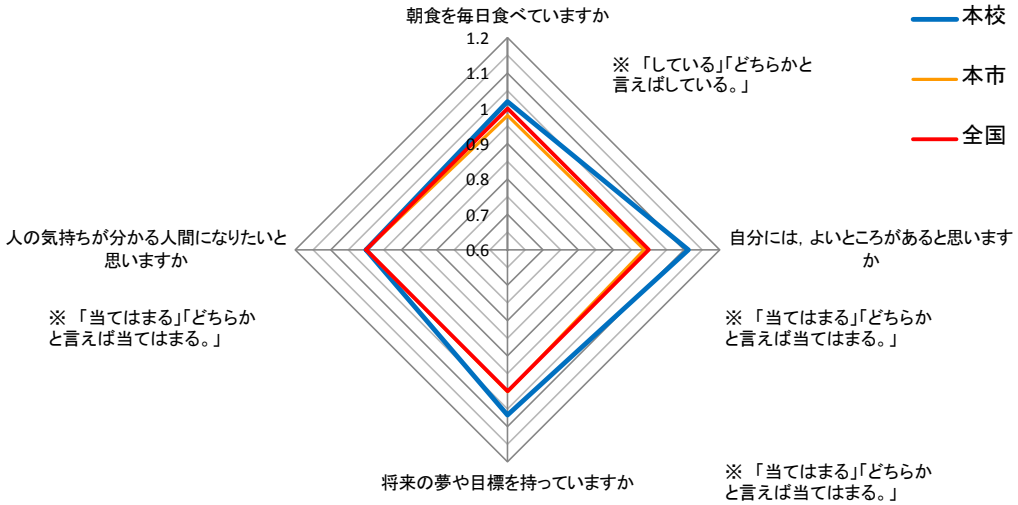
10
将来の夢や目標を持っていますか



36
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



⑤ 本校と本市の対全国比（全国を1とする）



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・朝食を毎日食べる生徒が、全国平均を上回っている。
・自己肯定感や将来の夢や目標を持っている生徒は、全国平均を上回っている。

３．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「〇」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎ 学力向上のための特設時間の実施。
・学力向上強化月間（国、数、英）、定期考査の予想問題の取組などを全校一斉に実施した。
・特設時間の取組内容計画表作成（学力向上推進委員会・各学年）を作成した。
・全国学力調査問題やCRTアシストシートのプリントを準備した。
◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用。
・アシストシートと過去問をプリントして、冬休み・春休みの課題の中に取り入れた。
・「春休みの課題考査」を実施し、過去の学力調査の問題等を入れる。
〇 「言語活動」や「書く」ことを習慣化する。
・授業で「自分の考えをまとめ、意見交換する時間」を取り入れる。
・漢字練習や「一日のふりかえり」を書くなど、漢字を書いて覚えるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「〇」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎ 「毎日家庭学習をする習慣」の確立
・「自主学習」として、漢字、計算、英単語、英文の練習をする。
・家庭学習時間、ノーゲーム、ノーテレビデーの設定をする。
・「学習の手引き」「授業の五ケ条」の作成・実施をする。
・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用 ※配布及びデータ配信済み
・家庭学習マイスター賞へ応募する。
・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。
◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
・学校便り、学校HPで知らせる。